

# 生徒を引率中(指導中)に経験したヒヤリ・ハット事例集 (悪天候・雪崩)

独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所

※ この事例集は、平成29年度に開催した高等学校等安全登山指導者研修会の事前課題で研修生の皆さんから収集したヒヤリ・ハットの主な事例と対応についてまとめたものです。場所や人が特定されないように、修正を加えたものです。

キーワード	事例	対応、その他
落雷	岩場のヤセ尾根を通過中に雷雲が急接近して瞬く間に雷雲の中に入り、頭上から発した稲妻が100~200メートル下に何度も落雷し、髪の毛が逆立っていた。	窪地にしゃがんでツェルトをかぶり、雷雲をやり過ごした。
落雷	4月、天候を確認して行ったにも関わらず、急激な天候の変化で雷雨に合い、至近距離で落雷があった。	遠雷の時点で気づき、稜線から逃げることも考えたが、1年生の新入部員がいた事、エスケープルートまでの距離があった事、また雷雲が近付く速度も早かったためザック等を稜線から下った樹林帯にデポし、部員をさらに下の樹林帯まで降ろして待機させ、雷雲が過ぎるのを待った。
落雷	数年前の夏季大会中に幕営地で雷が鳴ったため、施設内(廃校となった小学校校舎)に避難した。ところがその後、数名の生徒がテント内にある携帯電話を取りに行くために雨中に駆け出した。呼び戻し、強く注意をした。生徒はゲームをしたかったようである。	なぜ避難したのか、どれくらい避難をするのか(時間や今後の予想)を具体的に伝えていく。当時も全員に伝えたのだが…。
落雷	8月上旬の午後、遠くから雷鳴が聞こえ、小雨も降ってきた。	姿勢を低くし、速やかに小屋まで避難。雷注意報は出ていなかったが、夏の午後と言うことで注意はしたので素早く対応が出来た。
落雷	3泊4日の夏山合宿で縦走していたときに、天候が悪く1日小屋で停滞した次の日に、少し落ち着いたので出発したら、途中の稜線上でひどい雷雨にあった。	鞍部へ生徒を避難させ身を低くさせて30分ほど停滞した。足元が濁流が流れ、雷がすぐ近くで鳴り生きた心地がしなかった。運良く雷に直撃されなかったがかなり怖い思いをした。
落雷	7月の大会のコース下見のとき、初めてのルートで読図をしながら行動。途中、雷が鳴り出し、1時間ほど待機した。ゆっくりした行動と雷待機で行動が2時間ほど遅れキャンプ場に午後8時に着いた。	初めてのコースで時間が遅くなったので、途中で幕営も考えた。しかし、時間の許す限り行動。幸いコースも間違えずにキャンプ場に着いた。
落雷	8月の夏合宿で縦走を計画。1日目から天候不良のなか進むが、2日目朝から激しい雷雨で、顧問の権限で出発停止を命令。	何回か顧問が偵察に出るが、雷雨と増水の危険があり、半日停滞した。電波の通じる所から、学校と保護者に連絡。午後天候回復に伴い、とりあえず小屋まで進む。計画から半日分遅れたため、最終日にルートを変更して下山した。
落雷	7月中旬、夏山訓練登山として登山中、急速に雷雲が近づいてきた。森林限界に近いところにいたが、森林の中に走って逃げた。落雷がかなり近いところに落ちた。	ともかく全員を走って下山させた。登山開始時はとくに悪天候ではなかったが、急な雷雲が近づいていないか、事前に气象台の注意報等を見ていなかったが、もしかすれば警報等が出ていた可能性もあったかと思う。
落雷	夏山の下山中、午後3時頃、雷が鳴りだし、近くに落雷も出てきた。加えて雨も強くなってきた。そのうち、登山道は川のように水があふれてた。生徒達は、避難するところがなく、やむなくそのまま下の登山口まで歩かせた。雷が落ちなければよいと思いながら下った怖い思い出がある。生徒達は、だんだん疲れてスピードが遅くなり冷や冷やしたことがある。	避難小屋がない尾根のため、とにかく、目的地までみんなで声をかけながら励ましながら降りた。登山の日程が、詰まっておき、余裕のない無理な計画プランであったことが反省として残っている。天気が悪いと予報されていたにも関わらず、計画通り実行に移してしまった。余裕のないプランであったことが反省である。
荒天	山行を小雨でスタートしたが、前線の通過により、雨と風が増してきた。避難小屋まで100m手前あたりで、視界が無くなり、強風により飛ばされそうになり、生徒は恐怖で歩行困難となった。	登山道に2、3名ずつ固まって座らせ、顧問とともに2、3名ずつ手をつないで姿勢を低くし、避難小屋まで歩き避難した。
荒天	曇天の中、登山中に雨が降り始めた。体調不良者もなく山頂まであとわずかだったので登頂したが、雨が強くなり、すぐには下山出来なくなった。	小屋の軒下に入り雨具の下に重ね着をし、暖かい飲み物で暖をとった。小降りになったのを見計らって下山を開始したが、途中で雷が発生。小屋からは随分離れてしまったのと、その場で避難する適当な場所がなかったため、姿勢を低くして行動した。
荒天	夏、テント場に到着した時は、雨風が強かったが、どうにかテントを張ってテント内に避難した。ますます風が強くなり、フライは飛ばされ、テント内は水浸しとなり、テント内で食事を作ることが不可能だった。外に出ることは極めて危険だったので、その状態でどうにかテントを守っていたが、夜中にポールが折れ、テントが潰れた。	テントが潰れてから、山小屋に緊急避難する判断をした。怪我人はいなかったが、みんな寒い思いをした。明るくなってから、予定していた山頂へは行かず、雪渓を足早に下山した。夜も朝も何も食べていなかったため、下山途中にお湯を沸かし、ラーメンを食べ、体を温めた。
荒天	8月の夏合宿で縦走を計画。台風接近の予想があり、2日目に天気図をとると翌日に直撃の予想。予備日使用の前提として3日目の行動を中止する。	稜線に上がってスマホで天気図やレーダー画像などを受信し情報収集。強風に備えてテントを立て直し、張り綱などを強固に張り直す。テントごとに無線機を配置し、通信手段を確保。食料や飲料水も準備し、無事台風をやり過ごした。
荒天	8月上旬に夏山合宿を実施していた。台風が日本海を抜けていくことが予想されていたが、それほど厳しい山ではないので、続行可能と判断したが、非常に厳しい風雨に見舞われた。	ただひたすら同じ場所に2~3時間待機していたが、若干風雨の弱まったところで、避難小屋まで向かうこととし、何とかたどり着いた。すぐに下山すべきだったと反省している。
荒天	5月下旬に〇〇山を山越えしようとしたが、途中からかなりガスが濃くなり、山頂部はかなりの風雨だった。山頂部は雪に覆われており、下山口がわからなくなった。	何度も行き来して、なんとか下山口を見つけた。何回も来ているところでも状況が悪いと通常わかる道もわからなくなる。悪天候の際は、無理をしないことだと強く思った。
荒天	冬山合宿にて、コース途中で急な天候悪化。数メートルの先が見えなくなるほど雪風が強くなった。	先に進むことをやめ、全員近くに集め、絶対に前の人と離れないよう指示し、来た道をUターンして幕営地に戻った。
荒天	夏合宿で縦走中、冷たい風雨に打たれ、数人が歩けない状況になった。出発時点で天候は悪く、その日の活動は中止するか、〇〇山荘にとどめるべきであった。	鞍部にザックを3つデポし、当該部員を引きずるように小屋へ。到着時はすでに暗闇で、テント泊の予定であったが小屋の土間に20人で泊めてもらう。ザックは翌早朝に顧問が回収に向かった。

キーワード	事例	対応、その他
荒天	日没前に風雨に見舞われたものの、無事に小屋入り。翌朝、登頂を断念し下山の途に就くが強烈な風雨のため視界不良と、生徒の体力低下でペースが上がらず、下山に手間取る。	比較的良好なルートのため、生徒の体力を鑑みて下山することができた。ただ、時折あおられる突風のため、飛び石や、生徒自身が滑落する危険があった。登山ガイドの指導により下山。
雪崩	斜面を滑ろうとしたら、足元から表層雪崩が発生した。	すべり面を確認後、一人ひとりお互いにも目視しながら滑り降りた。
雪崩	ルンゼを登っていたら、ブロック雪崩が襲ってきた。	隣の小さいルンゼに飛び移った。
雪崩	冬季、雪壁を3人でトラバース中、3人目が渡り切った途端に雪崩発生。	この時はロープを使用せず、3人が十分な間隔を開けて1人ずつ急いで通過したが、ロープで確保すべきであったかもしれない。
雪崩	2月、大雪が降った翌日の下りで、登山道を外れたために新雪の表層雪崩をメンバー自身が誘発し、雪崩に押し流されて谷に落ちそうになった。小柄なメンバーだったので、小雪崩でも一気に体を持って行かれてしまった。	リーダーがすぐ近くを歩いていたため、落ちそうになったメンバーを引っ張り上げて登山道に戻した。谷側ではなく樹林帯を歩くように注意し、リーダーがこのメンバーに付き添って下山した。
雪庇	冬しか行くことのできない、県境縦走を試みた3月下旬のことであった。先頭を顧問である自分が稜線上を歩いていた。片方が切り立ったがけになっていた。底が抜けて崖下に落ちそうになった。雪庇の上であった。	他の顧問から引き上げてもらった。生徒は崖側から反対の方へ移動させた。
大量降雪	11月 秋山合宿 生徒7名・顧問2名 1未明までの雨が上がり晴天となった。麓から見ると少し雪がついた程度と見て9:00頃から様子を見ながら予定通り行動開始。稜線が近づくと5～10cmぐらいの積雪となったが、稜線に出る分岐でも20cm程度だったので予定通りのコースを歩くことにした。するとその後積雪が増えて、膝～吹きだまりではお尻ぐらいの積雪となった。天候は風弱く安定していたが、夏道が雪に覆われて分かりにくくなり、山頂手前で先頭の顧問が雪の下の水たまり片足膝下まで落水した。 2その後もラッセルやルート確認に時間がかかり、16:00頃にスキー場に出て、日没間際の無事17:00過ぎにホテルに着いた。	1替え靴下がなくメンバーから借りて履き替えたため凍傷など大事には至らなかった。 2体調不良を訴える生徒はおらず、時間外だったがホテルで温泉に入浴させてもらい、無事合宿所に着いて夕食を作り就寝、翌日予定通り帰校した。